

黒毛和種長期不受胎牛の放牧による受胎促進

畜産技術センター

要 旨

肉用牛繁殖経営において経済的損失の大きな要因となっている長期不受胎牛の受胎促進には、放牧が有効である。

成果の概要

長期不受胎牛を野草中心の放牧場に終日放牧すると、発情徴候が明瞭に観察されるようになり、人工授精（AI）を行うことができる（表1）。

放牧期間中のAIによる受胎頭数は30頭中27頭（90.0%）で、放牧による長期不受胎牛の受胎促進が図れる（表1）。

長期不受胎牛の受胎により子牛生産率が向上し、成雌牛1頭当たり34万円の所得向上が期待できる（表2）。

表1 繁殖障害別のAI及び受胎状況

繁殖障害の内容	頭数 (頭)	初回AIまで の日数(日)	受胎頭数(頭)			受胎割合 (%)	受胎牛の AI回数(回)	受胎までの 日数(日)
			自然	定時	計			
リピートブリーダー ^(注1)	7	18.3 ± 25.3	5	1	6	85.7	2.7 ± 1.2	87.8 ± 48.3
鈍性発情	16	33.5 ± 32.0	11	3	14	87.5	1.4 ± 0.5	60.0 ± 48.8
卵巣静止	1	85.0	0	1	1	100.0	3.0	197.0
卵胞嚢腫 ^(注2)	6	26.8 ± 19.0	3	3	6	100.0	2.8 ± 1.7	97.5 ± 63.7
合計・平均	30	30.3 ± 29.5	19	8	27	90.0	2.1 ± 1.2	79.6 ± 57.0

(注1)リピートブリーダー:3回以上人工授精しても受胎しない牛

(注2)卵胞嚢腫は、発見時に内溶液を吸引

表2 経営収支の試算(成雌牛1頭当たり) (千円)

科 目	受胎	不受胎	差引	備 考
粗 収 益	395	10	385	子牛販売収入の増加
生 産 費 用	340	323	17	子牛購入飼料費の増加
販 売 管 理 費	42	15	27	子牛販売経費の増加
費 用 合 計	382	338	44	
所 得	166	-175	341	粗収益 - 費用 + 家族労働費153千円

参考資料:京都府畜産経営指導指標



図 放牧風景

(問合せ先: 0773-47-0301)